

地球温暖化問題が長期にわたる対策を要する環境問題であるからこそ、森林の取り扱いも同じように長期的な観点で考えなくてはならないでしょうし、それが、森林経営のあるべき姿だと思います。国有林の膨大な赤字のため、目先のお金に目が眩みやすいのが昨今の林野庁ですが、もし、木が生えているだけで当面はお金を稼げるのなら、それでもいいじゃないかという刹那的な対応をとりそうになったら、その時は強くお叱りください。

## 図書紹介

◎飼葉生産のための窒素固定樹木 [DANIEL, J.N. & J.M. ROSHETKO, eds. 1998. Nitrogen Fixing Trees for Fodder Production : Proceedings of an International Workshop. Forest, Farm, and Community Tree Research Reports (Special Issue). FACT Net, Winrock International, Morrilton, Arkansas, USA, 259 pp. Fax : 1-501-727-5417]

本書は、1995年3月20～25日に、インドのプーナで開かれた国際研究集会の proceedings として刊行されたものである。この研究集会はウィンロック財団の活動組織の一つである窒素固定樹木協会（NFTA、現在は森林・農地・コミュニティ樹木ネットワーク（FACT Net）に改称）と、インドのパハラティヤ農産業開発研究財団（BAIF Development Research Foundation）の共催で開かれたもので、目的は飼料木として栽培される窒素固定樹木の育成・利用技術に関する研究成果の発表と今後の研究方向、支援体制についての意見交換である。本書の構成は、1. 飼葉生産のための窒素固定樹木の可能性、2. 窒素固定樹木による飼葉生産、3. 困難地における窒素固定樹木、4. 窒素固定飼料木によるアグロフォレストリー、5. 窒素固定飼料木の栄養価値と給餌試験、6. 窒素固定樹木の品質改良の6章からなり、掲載論文の内容はこれまでの研究のレビューから屋内実験や栽培試験の結果の紹介など幅広いものとなっている。全体を通じて感じられるのは、論文を寄せた研究者の間に、自然条件の厳しい地帯での農地の保全やそこで暮らす農民の生活の向上につながる技術開発が強い目的意識として流れていることで、論文の内容も応用的、実践的なものが多くを占めていることである。この研究集会の成果として、本書と併せて普及員等に活用してもらうためのマニュアル（Nitrogen Fixing Trees for Fodder Production : A Field Manual）が刊行されている。特に半乾燥地での農林地保全に関心を持つ研究者や国際協力の現場で活躍されている方々にセットでおすす  
めしたい。

（加藤 隆）